

2026 年 10 月 9 日

## 「近江鉄道カレンダー2027」フォトコンテスト 入賞作品が決定しました！

入賞作品は「近江鉄道カレンダー2027」に掲載  
10 月 11 日（日）開催の『ガチャフェス 2026』で先行発売

近江鉄道株式会社（本社：滋賀県彦根市、代表取締役社長：藤井 高明）は、2026 年 6 月 1 日（月）から 7 月 31 日（金）まで「近江鉄道カレンダー2027」フォトコンテストを開催し、入賞作品を決定しました。

本コンテストでは、「近江鉄道、新発見。～あなたの『推し』の近江鉄道～」をテーマに作品を募集し、計 256 作品のご応募をいただきました。プロ写真家である村上悠太氏による審査の結果、最優秀賞 1 作品、優秀賞 1 作品、カレンダー賞 12 作品の計 14 作品を選出しました。

入賞した 14 作品は「近江鉄道カレンダー2027」として商品化し、販売いたします。みなさまが撮影した、四季折々の「推しの近江鉄道」が詰まった力作ぞろいの一冊です。ぜひカレンダーをお部屋に飾っていただき、2027 年の毎日を彩ってみませんか。

詳細は、別紙のとおりです。



最優秀賞「ドクターガチャコン初めての春」

撮影：白オデ さま  
＜カレンダー表紙＞



優秀賞「晩秋のコスモス畑にて」

撮影：いそっぷ さま  
＜カレンダー中表紙＞

「近江鉄道カレンダー2027」フォトコンテストの入賞作品について

■最優秀賞（カレンダー表紙）



撮影：白オデ さま  
撮影場所：京セラ前駅～桜川駅

「ドクターガチャコン初めての春」

＜審査員のコメント＞

近江鉄道に新しく仲間入りした 200 形をお祝いするかのような、のびやかな春の光景が広がっている様子に惹かれた 1 枚です。菜の花の前ボケを活かし、奥行きある描写もこの写真の大きな魅力の一つです。黄色、桜色、そして黄色い 200 形と、新しい春を謳歌する、そんな鮮やかな世界観を存分に感じる写真で、まさに表紙にふさわしい 1 枚だなと感じました。

■優秀賞（カレンダー中表紙）



撮影：いそっぷ さま  
撮影場所：市辺駅～平田駅

「晩秋のコスモス畑にて」

＜審査員のコメント＞

菜の花・夏雲・ひまわりにならぶ、近江鉄道の季節を彩る花であるコスモス。初秋よりもやや彩度が落ち着いた空と、コスモスのようすに惹かれた 1 枚です。素朴ながらもカレンダーの写真に欠かせない、安定した構図と列車の配置で安心して見続けていられる、技術力の光る写真でした。

■カレンダー賞（カレンダー各月）

【1 月】「わが街東近江の雪景色」



撮影：ようちゃん さま  
撮影場所：河辺の森駅～八日市駅

＜審査員のコメント＞

1 年のスタートにふさわしい、雪晴れの近江鉄道です。雪晴れはただでさえチャンスが少ない上、仮に晴れ予報になったとしても雲一つない快晴という条件にはならず、晴れたり曇ったりを繰り返す、撮影者泣かせのシチュエーションになることがほとんどです。その上、どんなに気温が低くとも屋根に積もった雪はどんどん落ちていってしまうため、シャッターチャンスは本当に数時間だったのではないのでしょうか。雪化粧をまとった街並みに、雪晴れの青空を想像させるカラーリングの近江鉄道が最高のコラボレーションでした。

【2 月】「朝のきらめきの中で」



撮影：ラビット+ さま  
撮影場所：日野駅～水口松尾駅

＜審査員のコメント＞

何気ない風景を撮影者のセンスとテクニックで、ちょっと特別な風景として写真に仕上げてゆく。これこそ写真の醍醐味だなと感じた 1 枚です。目線を下げ、逆光にきらめく光を読み解き、ハイキーになった空に列車を浮かび上がらせるという、作者の明確な狙いと技術力を感じます。寒さが緩み、ちょっとずつ春の気配を感じる、そんな 1 枚にも見ることができました。列車のカラーリングと写真全体の世界観もよく、「こんな写真にしよう」という、最終的な仕上がりまでを見通していた、そんなニュアンスすら伝わります。

### 【3月】「春を乗せて、黄色いシンフォニー」



撮影：Yukko さま  
撮影場所：市辺駅～平田駅

#### ＜審査員のコメント＞

西武鉄道からやってきた新しい仲間と、黄色い菜の花のマッチング、そして鮮やかな青空が印象的な1枚です。菜の花畑は一面まんべんなく咲いているようで、写真に収めようとすると、花の位置に微妙なムラがあったり、高さが揃って見えなかったりと、実はきれいに撮影するためには細かなケアが必要な被写体の一つです。また、空と菜の花の比率、列車の位置などによって、写真の印象が大きく異なってくるのですが、この1枚はその全てが的確なバランスで仕上げられています。列車前後の余白を均等にして列車をセンターに配置したのも効果的でした。

### 【4月】「春・満開」



撮影：YOU1 さま  
撮影場所：ひこね芹川駅～彦根口駅

#### ＜審査員のコメント＞

カレンダーの華とも言える4月には、画面いっぱいに広がるこの1枚をセレクトさせていただきました。桜色とその反対色となる緑色の車体が、コントラストとインパクトを与え画面全体を引き締めています。こうした構図の場合、枝の配置の仕方が画面全体の印象を大きく変えますが、列車を包み込むように的確に配置されている印象でした。ほんのわずかだけ踏切が写り込んでいるのも、警報機の音を鑑賞者に想像させ、臨場感ある表現です。

### 【5月】「五月晴れ」



撮影：錯乱坊 さま  
撮影場所：桜川駅

#### ＜審査員のコメント＞

春の暖かさから、夏の熱気に移行する力強い日光を感じる写真です。可憐に咲いたつつじが美しく、あえて列車にピントを合わせるのではなく、花にピントを合わせた表現も効果的でした。こうした撮影では、気をつけないと列車をぼかしすぎてしまい、初見の鑑賞者に「列車がぼけている」ということが伝わらず、写真の意図が分からなくなることがままあるのですが、この写真はそうしたリスクもなく、しっかりとした作者の意図と、表現したかった内容が伝わる1枚です。

### 【6月】「紫陽花と近江鉄道」



撮影：まちゃどん さま  
撮影場所：平田駅～武佐駅

#### ＜審査員のコメント＞

梅雨の晴れ間を喜ぶような鮮やかな紫陽花が鑑賞者を強く惹きつける写真です。紫陽花はその形状と地表に近いところに咲く特性から、列車と一緒に撮ろうとするとフレーミングが難しい被写体の一つです。しかし、この写真は広角レンズを用いて、遠近感が強調されるレンズ特性を活かしながら、バランスよくまとめ上げられている点が素敵だなと感じました。画面右上の雲の形状も広角レンズでのびやかに描写することで、画面全体に開放感を与えています。

## 【7月】「夏のはじまり」



撮影：grass\_2854 さま

撮影場所：河辺の森駅～八日市駅

### ＜審査員のコメント＞

近江鉄道カレンダーの審査を担当してしばらく経ちましたが、この沿線は本当に夏の風景が素敵なのだ、と毎年のように感じています。そのため多くの写真をご応募いただくのですが、その中でいかに作者の個性やセンスでとっておきの1枚に収めるか、毎年みなさんの工夫を拝見しながらワクワクしています。この写真も雲の様子、出穂したての田んぼ、列車のカラーリングなど、複数の要因が巧みに重なり合って撮影された、かけがえのない1枚のように感じます。田んぼのボケ感も的確で、きちんと仕上げられた丁寧な写真です。

## 【8月】「ひまわりの向こうから」



撮影：よっし〜 さま

撮影場所：市辺駅～平田駅

### ＜審査員のコメント＞

この写真を拝見した時に、ヘッドライトがよかったか、テールライトがよかったか、しばし悩んでいました。定番なのはヘッドライトなのですが、逆光下での撮影とややピークアウトしたひまわりの様子に、どこか「まだまだ終わらないけど、夏の終わりが見えてきた」というような気配を感じ、テールライトとのマッチングが的確だったと解釈しています。夏というと元気いっぱいの写真を狙いがちですが、こうした注意深く見ていないと見逃してしまう「微かな瞬間」を写真に残した、作者の優しいカメラアイに感動しました。

## 【9月】「秋の実り」



撮影：kabochan さま

撮影場所：太郎坊宮前駅～市辺駅

### ＜審査員のコメント＞

秋の気配を感じる彼岸花と空模様。そして黄金色の稲穂。これぞ、初秋の近江鉄道という風景です。一見、画面右端まで彼岸花を配置したいなと思うところではあるのですが、この写真をやや引いて全体を見ると空の青と白、列車、稲穂、彼岸花、大地の緑が、画面の中でそれぞれストライプのように配置されていることから、見た目にも楽しいだけでなく、美しいレイアウトになっています。半逆光気味の光線もとても効果的でした。

## 【10月】「おばけが笑う、いつものホームで」



撮影：TAKU さま

撮影場所：新八日市駅

### ＜審査員のコメント＞

数ある近江鉄道のシーンの中で初めて拝見したモチーフでした。ユニークな光景をそのインパクトだけに依存せず、構図、ボケ感、ホワイトバランスなど細部にこだわって撮影されていることがよく伝わります。列車のヘッドマークも合わさって、画面全体で世界観が統一されており、ほんわかした雰囲気の写真の中にも確固たるテーマがあるので、しっかりと仕上げられた写真という印象でした。

## 【11 月】「柿の季節をゆく赤電」



撮影：RYOU さま

撮影場所：河辺の森駅～八日市駅

### ＜審査員のコメント＞

構図、気象条件、列車の配置等、全てが慎重にまとめ上げられた 1 枚です。列車は小さく描写されていますが、それこそがこの写真の世界観を作り出す、最大の要因に感じます。写真は寄ることよりも引くことが難しいと僕は考えているのですが、それは画面に写り込む要素が増える分、それをまとめる構成力が求められるためです。親子のような 2 本の柿の木を並べ、その先にさらに小さな列車を配置することで、構図にリズムを作り、単調になりがちな霧の情景にアクセントを加えています。何をどう撮るのか、何を伝えたいのか。今回のコンテストの中で最もそれが明確に伝わった写真でした。

## 【12 月】「霊峰綿向山を望む」



撮影：てらさわ さま

撮影場所：朝日野駅～日野駅

### ＜審査員のコメント＞

冷気を感じる、きりりと引き締まった光景に惹かれました。刻一刻と状況が変わってしまう雪晴れの中、木々に雪が残っているわずかな間の確に撮影し、シャッターチャンスを逃さなかった点も見逃せません。爽快感ある写真で一年をしめくくり、次の年に期待を膨らませる、そんな写真に感じました。山頂と列車の先頭部を対角線上に配置したことで構図全体のバランスも安定しています。

## ■審査員



### 村上 悠太（むらかみ ゆうた）氏

1987 年東京都生まれ。鉄道発祥の地、新橋で JR 発足年に生まれた。日本大学芸術学部写真学科卒業。「ひとと鉄道、そして生活」をテーマに制作活動を行う。

鉄道旅を通して日台観光促進、相互交流にも携わり、2019 年台湾観光貢献賞（台湾政府 観光局）を受賞。

高校時代には、毎夏北海道東川町で開催されている「写真甲子園」に出場し、2019 年開催大会では出場者で初めて審査委員を務める。

主な個展に、鉄道写真＋動画展「てつ動展」（EIZO ガレリア銀座 2015 年）、「つなぐ旅」（キヤノンオープンギャラリー 2016 年）、「つなぐ旅-その、日々へ-」（キヤノンギャラリー銀座・大阪 2020 年）。

- ・キヤノン EOS 学園東京校 講師
- ・日本大学芸術学部写真学科 非常勤講師
- ・日本鉄道写真作家協会 理事

## 「近江鉄道カレンダー2027」の販売について

### 1. 先行発売

- (1) 販売日 2026年10月11日(日) 10:00~15:00
- (2) 販売場所 近江鉄道八日市駅 待合スペース  
『ガチャフェス 2026』近江鉄道グッズ販売会場

### 2. 一般販売

- (1) 販売日 2026年10月16日(金)より
- (2) 販売場所
  - ・近江鉄道線 彦根駅、八日市駅、近江八幡駅
  - ・イベント会場(ご当地キャラ博 2026、駅祭ティング 2026 in天王寺公園ほか)
  - ・通信販売(<https://www.ohmitetudo.co.jp/railway/fan/goods/>)

3. 販売部数 500部 ※在庫が無くなり次第、販売終了となります。

4. 販売価格 1,000円(税込)

5. 商品概要 見開きB3判

◇お客さまからのお問合せ先

近江鉄道株式会社 鉄道部

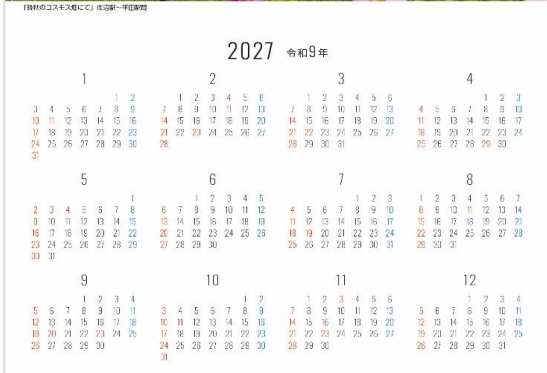
TEL.0749-22-3303(平日8:40~17:20)

### <参考>

#### ●2026年5月22日リリース

「近江鉄道カレンダー2027」フォトコンテストを開催します!

<https://www.ohmitetudo.co.jp/file.jsp?id=19138>



「近江鉄道カレンダー2027」見本